

# 会報 わかくさの風

No.21

## 社会福祉法人戸田わかくさ会

〒335-0021 埼玉県戸田市新曽1522-1 わかくさ内

Tel 048-432-8198 Fax 048-432-8298 <http://www.wakakusa-kai.com/>

新年あけましておめでとうござい  
ます。

障害のある人の暮らしを共に  
つくりあげる福祉実践を

新年あけましておめでとうござ  
います。日頃から本会の活動にご  
支援いただき、心から感謝申し上  
げます。当法人もお陰様で15年を  
迎えました。障害のある人たち  
と共に歩むことについてはまだま  
だ不十分です。福祉の原点である  
「共に」の大切さをあらためて痛  
感しています。

社会福祉法人の特徴は、主体性、  
独立性、創造性、協働性を心柱に  
して、社会資源の創出を含め利用  
者の暮らしや働くことを築いてい  
くことにあると考えています。実  
践を通してどう具体化していくか  
が大きな課題になって  
います。課題解決のひと  
つとして、  
1月から2  
月にかけて  
障害福祉の  
豊かな経験  
を持つ外部  
の方の眼で、



私たちの日頃の取り組みを見てい  
ただくことにしました。内側だけ  
の見方ではわからないことが多く  
あります。外部の人の魚眼レンズ  
で見てもらうことで、多くの気づ  
きが与えられます。また、外部の  
実践から学ぶこと、知見を深める  
ことが実践力の向上と当事者の豊  
かさにつながります。今年はお外  
から学ぶことに力点を置き、支援力、  
実践力を高め、期待に応えていき  
たいと考えています。

また、昨年、県立近代美術館で  
「障害者アート企画展」を鑑賞し  
ましたが、一人ひとりの作家の心  
の叫び、内面の豊かさに圧倒され  
ました。企画展には「うふっ あ  
なたの心をノックアート!？」と  
いうキャッチフレーズがありました。  
心が突き上げられるものがあり  
ました。作家の作品に寄せるひ  
たむきな姿、そして奥深くにある  
気持ち・心の発現としての作品、  
心がときめいたというのが実感で  
した。法人も表現活動委員で多様  
な表現の機会を作っております。

「うふっ あ  
なたの心をノッ  
クアート!？」  
で、その人ら  
しい表現を大  
切にしていけ  
る法人であり、職員でありたいと  
思います。

さらに約束事として、グループ  
ホームの整備があります。昨年、  
中古の戸建ての購入を具体的に検  
討しましたが、諸般の事情から断  
念せざるを得ませんでした。借地  
などによりホームの増設にも引き  
続き取り組んでいきたいと思いま  
す。

本年も本会にお力添えをいただ  
きますように心からお願ひ申し上  
げます。皆さまにとつて、「幸せ  
な年」でありますよう心からご祈  
念申し上げます。

令和2年1月

社会福祉法人 戸田わかくさ会

理事長 横山 ユタカ

統括施設長 竹嶋 紘



## 令和元年度 障害児・者実践交流会

令和元年12月1日、戸田市商工会にて6年目を迎える「障害児・者実践交流会」開催しました。

4つの事業所が共同で実行委員会を立ち上げ「幼児期から親亡き後を見据えて」という大テーマをもとに準備してきました。今回は『様々な連携を通じた障害児・者の支援について考える』という視点を絞り、事例を通しての障害児・者支援について学びました。

### ◆さまざまな連携

障害を持つ方の様々な年代での繋がりを学ぶため、まずは幼児期として児童発達支援センターあすなる学園の中久喜さんより「人と“つながり”く保護者支援を通じて感じたこと」について発表して頂きました。学園に通う子どもとの関わりを大事にするだけでなく、子どもにとって1番身近な家族を知り、サポートすることの重要性について事例を通して報告されました。現場での葛藤を話されながらも、子どもを支援するために“いま”何をすべきか？優先することは何か？という支援者としての大事な判断が強く感じられました。

成人期ではゆうゆうの太田が、「利用者支援と地域との関わりと菓子を通しての支援」について、和菓子販売することでの利用者との販売先や地域住民との繋がりについて報告がありました。繋がりを

を通して、利用者がお客さんから声を掛けられたり感謝されたりすることにより、やりがいや喜びを感じるだけでなく、他の利用者（仲間）を助ける気持ちが芽生えたという心温まる話が聞けました。

最後に、どの年代のサポートにもあたる蕨市社会福祉協議会、ドリマ松原 基幹相談支援センターの大櫛さんより「蕨市における相談支援専門員の取り組みと教育との連携」について、基幹相談支援センターの仕組みから始まり、市内小中学校との連携の課題や現状について報告がありました。その中で大櫛さんは「利用者と一緒に成長していこう」「出来ることはあるはず、諦めない心を持つ」と伝えてくださいました。

### ◆実践報告を通じて

今回発表して頂いた方だけでなく、実行委員でもあるあすなる学園の島崎園長からも「信頼できる他者がいることは大事」というお言葉がありました。障害の有無に関係なく、地域で暮らすため、社会で生きていくためには当然のこ

とながら、ひとりでは生きてはいけません。信頼できる他者がいることは、信頼される自分がいることでもあると思います。地域や他機関と連携するには、地域から必要とされる施設を目指すことも重要と感じました。施設を知ってもらったことが利用者支援になり、住み慣れた地域で暮らしていきたいと選択した利用者の生活をサポートすることに繋がるかもしれません。

今後も、誰もが豊かに、希望する生活ができる社会を目指す学びの場となるために実践交流会を開催していこうと思います。

（研修委員 英）





## 虐待防止・権利擁護研修

『私たちのことを、私たち抜きに決めないで  
～身近な所から意思決定支援を考えてみよう～』

法人の委員会の中に虐待防止・権利擁護委員会があります。主に虐待防止にむけた、チェックリストの実施や法人内研修の企画等を行っています。今年度は2019年9月20日虐待防止・権利擁護研修として『私たちのことを、私たち抜きに決めないで～身近な所から意思決定支援を考えてみよう～』という研修会を企画し50名が参加しました。

### ◆研修の実施内容

今回の研修のねらいとしては私たちの日々の支援のなかで行われている意思決定支援について理解を深めることで権利擁護の視点を学んでいこうというものでした。

研修の内容としては、次のように進めました。まず事前学習の課題として意思決定ガイドライン（厚労省）を読み込み、次に、職員の日々の実践の中での意思決定支援の取り組みを事例として用意してもらおうようにしました。

そして当日、一部としては20分ほど意思決定支援と障害者基本法の講座をゆうゆうサービス管理責任者の上村から行いました。意思決定支援の概要と担当者としての事業所内で実践の話の織入れなが

ら説明がありました。次に二部としてグループワークを行いました。1グループ5名程度で常勤・非常勤、事業所もバラバラでグループを作りました。それぞれ事例を持ち寄り、共有し、意思決定支援を行う中で大切なことをまとめ、発表を行いました。



### ◆参加職員の声

参加した職員のアンケート結果からは次のような声がありました。『日々、当たり前に行っていることの中にも、本人が意思決定していないことが存在するのではなにかと思ひ、ひとつ一つの事柄について発想の転換や疑問視するこ

とが必要だと強く感じた。』  
『信頼関係と距離感、わかりやすい提示、ツールの活用、情報の共有、発想の転換：など、身近なところで日々の利用者と接する中で「心掛けて行っていく」ことが大切であると改めて感じた。』

今回の研修で職員が意思決定の視点について学んだことや支援の中での気付きをもって、今後のそれぞれの事業所での支援に活かしていければと思います。

（虐待防止・権利擁護委員会 酒井）





# 各事業所の取り組み

## わかくさ

### 作業拡充と新しい挑戦

いよいよ2020年東京オリ

ピックイヤーを迎えることとなり  
ますが、福祉サービス事業所わか  
くさは、「働くこと」を振り返り、  
新しい仕事に挑戦することや、仕  
事量を増やすことに取り組み工賃  
向上を図る準備を始めております。

一つ目は新しい作業になるガス  
メーターの解体作業です。解体と  
聞いて「危険じゃないか?」「難  
しいのでは?」と思われるかもしれ  
ませんが、6種類程度の道具を  
使いビスを外していくわかりやす  
い作業です。

準備を進め  
る中で作業  
に関わった  
利用者から  
は、「黙々  
とやるとこ  
ろが好きで  
す。」「お



給料上がるかなー。」など作業に  
前向きな声が上がっています。一  
人でも多くの利用者が「働く」こ  
とに生きがいを感じ、新年から良  
いスタートダッシュが切れるよう  
に、一つひとつ丁寧に準備を進め  
て行きたいと思えます。



二つ目は、缶作業や新聞作業な  
ど既存作業(リサイクル作業)の  
拡充です。一つひとつの工程を利  
用者主体で取り組んでおり、回収  
工程では、缶のケースや古紙類を  
一所懸命運び「今日はいっぱいあつ  
たね」「回収ご苦労様」等と地域  
の方と談笑する場面が毎回見られ  
ます。また、納品して代金を受け  
取る際は「これ、皆の工賃になる  
ね」と言ってくる利用者の表情が  
毎回印象的です。

しかし、そういった中、近頃は  
缶や新聞紙の回収量が減っていま

す。「缶飲料をあまり飲まない人」  
「新聞を取らない人」等も増えて  
いる傾向にありますが、私たちが  
呼びかけを怠ってきたことも一つ  
の要因かと考えます。目に見える  
形で地域の既存施設等への働きか  
けにより、今まで以上に発信力を  
強化して利用者達と地域の方の笑  
顔が更に見られるようにしていき  
たいと思えます。

(わかくさ 鈴木貴・織茂)

## ゆうゆう

### これまでを振り返り...

これまでゆうゆうは「週5日」  
「9時から4時」で通うことがで  
きる方が利用をしてきました。2  
0名定員で25名が通所しており、  
みなさんほとんど休まないの  
で、「これ以上の利用者さんは受け入  
れられない!」という状況が続い  
ていました。

しかし、最近では働き方の希望が  
様々になっており、通所する日数  
や時間など、『みんな同じ』では  
なくともよいだろう、とゆうゆう  
も利用者さんの思いに寄り添い、



方向転換を行っ  
た年となりま  
した。

その結果、  
これまで週5  
日利用してい  
た方が利用を  
週3日に減ら  
し、他施設と  
併用をするよ  
うになりました。

た。秋になって、他施設との併用  
で週1日、短時間での利用の方と、  
午後からの利用の方、計2名の方  
を新たに利用者として迎えること  
ができました。新しい利用のスタ  
イルです。

### 2020年に向けて

新たな利用者を迎え入れたこと  
で、ゆうゆうに新しい風が吹いて  
きました。

これまで職員が主に担ってきた  
「どらやきの販売方法」「ポップ  
の制作」など、利用者さんがアイ  
デアを出してくれるようになりま  
した。また、ある利用者さんは、  
どらやきの製造工程全般を把握す  
ることにチャレンジしてくれてい  
ます。みんなにとって、とても刺

激になっていくようです。

2020年も、引き続き、利用者さんや利用を希望する方たちの多様な希望に応えていき、ワクワクする楽しいゆうゆうをみんなで作りに上げていきたいと思えます！

(ゆうゆう 浜田)



利用者さん作 販売ガラス

## かがやき

### かがやきの取り組み

かがやきでは、利用者がかがやきに留まることなく、就労を目指し、地域で充実した生活が営まれるよう通過型施設として日々の活動に取り組んでいます。

就労移行の施設外実習では、企業の協力・指導を得て、仕事の内容や手順を身に付け、働く意欲に繋がっています。また、施設内においては、「フレンドリータイム」を実施しています。この「フレンド



「フレンドリータイム」は、在籍者と就労された方、それぞれの余暇支援、定着支援の目的があります。ゲームをしたり談笑をしたり、一見、親睦を深める交流会のような光景かも知れませんが、在籍者の方には就労した方と同席することにより、就労するための意識・意欲を向上し、また、就労した方には安定した日々の生活に繋がるように支援をしています。

就労継続支援B型では、就労へ向けての基本的労働習慣を身に付けて、働いて対価を得ることの認識を深めていただくよう取り組んでいます。労働で得た工賃を活用し、充実した余暇を過ごすため「マイイベント」を実施しています。利用者主体で少人数のグループで目的・昼食・交通手段等を話し合い、個人の主張と全体の協調性のバランスを図りながら実施しています。「マイイベント」は余暇活

動を通して人との繋がりを自分の存在を発見し、さらに働く意欲を促進していきます。形式的な行事として実施することだけではなく、仲間と情報を共有し、連帯感の中で自ら判断する大切な支援として位置づけられています。余暇の充実が、日常生活の活性化に繋がることは意義深いことと思われま

(かがやき 南雲)

## グリーングラス

### Aさんの目標

#### ◆振り返り

激動の1年でしたね」とAさんは今年を振り返っています。

Aさんは今年、今通っている作業所からより高い工賃を目指し、ほかの作業所で実習を行いました。努力家で、時には頑張りすぎて疲れてしまうこともあるAさん。そんなAさんは、実習を乗り越えられた要因として「ホームに帰ってきてから、その日のことや悩んだことを相談できたから」と話していました。

仕事場と家での自分は誰しも違うものかと思えます。実習という慣れない場所で緊張の糸を張り詰めていたAさんも、ホームに帰っ

てきてからはリラックスできていたのではないのでしょうか。日々の支援や介助ももちろん重要ではありませんが、皆さんの何気ない想いや気持ち聴いていくこともまた重要なことなのではないかと感じます。

#### ◆目標

そんなAさんに来年の抱負を聞いてみると「もう一回実習して作業所の移籍を目指したい」「土曜日に行っているサークル活動ももっと参加できるようにしたい」と活き活きと話してくれました。

希望する暮らしに向かって頑張っているAさんを含め、みなさんが帰って来たときにホッと一息つける、そんな雰囲気のあるホームになるよう来年も頑張っていけたらと思います。

(グリーングラス 寺内)



# わかば・ひかり 相談しやすい体制づくりを目指して

「わかば」と「ひかり」では、障害のある方やご家族の様々なご相談を受けています。

市内には現在8か所の相談支援事業所がありますが、サービス利用のための支援を行う「指定特定事業所」とサービス利用だけでなく生活上の困りごとの相談に対応する「委託事業所」があります。この指定特定と委託の事業所がうまく機能し連携する相談支援体制・相談しやすい形を作っていきたいと思っています。



## ◆委託と指定特定が一緒に関わっているMさんの場合・・・

Mさんは作業所に通い、お休みの日はヘルパーさんと外出しています。親なき後に備えた相談についてほしいという希望があるということで、計画相談をしているS指定特定相談事業所から、わかばを紹介されました。Mさんはまだ「親なき後」についてピンときていないのですが、高齢のお母さんは将来を心配しています。わかば

からは、グループホームやヘルパーを利用した生活の方法と、成年後見制度についての情報提供をしたり、わかばの勉強会

にもお誘いしました。なかなか難しいことでもありますので、お母さんの疑問や不安をお聞きしながら少しずつ準備を進めていくことになりました。グループホームについては、Mさんも一緒に見学し、体験をしましたが、こちらはS相談所が対応しました。

このように、指定特定のS相談所とわかばが連携しながらMさんとご家族に関わり、現在の暮らしの支援と将来への相談を続けていきます。

## ◆これからの取り組み

相談支援体制づくりは戸田市の取り組みとして、市内の相談支援事業所連絡会で検討をしています。より暮らしやすい地域づくりのためにわかばとひかりも積極的に関わっていききたいと思っています。(わかば 猪野)



# 戸田C・みなみの実践

## ◆就労相談会

戸田市障害者就労支援センターでは、昨年の6月・9月・12月に戸田市役所の会議室で就労相談会を行いました。

就労支援センターをもっと知っていた機会を増やし、戸田市にお住まいの障害のある方が就労の相談ができる場として開催しています。

昨年ご相談された方々はそれぞれのご希望や心身の状況などを面談にて聞き取りをし、職場見学や職場実習を経て就労に進んでいます。

## ◆今年の取り組み

就労相談会を隔月に開催し、より多くの方が相談にきていただけるように広報活動を行い、戸田市在住の障害のある方のニーズを積極的に捉える機会にしていきます。



就労といっても、さまざまな形があり、時間帯、日数、勤務形態、職種など、多種多様な働き方を提案し、相談者の自己実現を目指します。また、就労に伴い、生活面での不安を持つ方には、生活支援センターと連携・協力して相談を行います。

## ◆ご相談ください

- ・企業で働きたいと思っている方
- ・働きたいけど、何から始めてよいかわからない方
- ・今働いているけど、一人で悩んでいる方
- ・仕事を続けていく自信を無くした方
- ・転職を考えている方

開催日時は社会福祉法人戸田わかくさ会のホームページや戸田市広報などをご確認ください。

(戸田C 竹中)





## 作品展示は、支援の「手段」であって、支援の「目的」ではなっていない

今年度も、たくさんの方々に、戸田わかくさ会で表現活動をしている作家たちの作品を観て頂いています。

まず、6月。埼玉県障害者アートネットワーク「TAMAP±〇」の活動として『彩の国セルプまつり』に参加し、大宮ソニックシティの前にある鐘塚公園で、わかくさの三瓶好範さんの作品を展示しました。気持ち良く晴れた空の下、たくさんのお客さんが作品の前で足を止めてくれました。



そして8月は、熊谷の八木橋百貨店で開催された『アンプかわいイサミット』に参加し、ゆうゆうの飯田貴之さんの作品を展示しました。この展覧会では、飯田さんの作品を気に入ったお客さんが、作品を購入してくれました！このお客様は後日、飯田さんに会いに来て、飯田さんの演奏するピアノの音色を聴いたそうです。

また、同じく8月。オリンピック・パラリンピックに関連してイオンモール北戸田で開催された『埼玉で開催！ 1年前月間イベント』北戸田〜東京2020開催まであと1年！』では、埼玉県の福祉部・障害者福祉推進課と共同で障害者アート展示ブースを設けました。このブースでは、わかくさの神尾有治さん、川村幸子さん、ゆうゆうの飯田貴之さん、小暮克行さんの作品を展示しました。このイベントはイオンモール北戸田の1階と2階を使用してパラリンピック関連のブースがいくつも出展し、とても大規模な催し物となりました。



「展覧会で自分の絵を見つけた時の榎本さん。埼玉県立近代美術館にて。」

9月にはゆうゆうの石井さやさんが入選し、戸田市文化会館で大きな作品が展示されました。この絵を描いているときの石井さんは、笑顔で楽しそうに、大きく腕をぐるぐる動かしながら描いていました。このときの石井さんの写真があるのですが、この写真はもう宝物と言っているようです。

12月には、戸田市役所でわかくさの阿部里美さん、堀内博文さん、

ゆうゆうの小暮克行さん、遠山明宏さんの作品を展示しました。また、同じく12月には、埼玉県立近代美術館で『第10回埼玉県障害者アート企画展 Knock art-10』芸術は無差別級』が開催されました。この展覧会は、厳しい選考の末に埼玉県全域から選出された135人の入選者による展覧会です。戸田わかくさ会からは、わかくさの松田良雄さん、ゆうゆうの榎本雅俊さん、金井塚順一さん、斉藤勇真さん、長澤章さん、かがやきの阿部唯人さんが出展しました。会場には5日間で約1700人が来場しました。

こうして、いろいろな場所で作品を展示しましたが、戸田わかくさ会の表現活動は、作品を展示することを支援の「目的」「目標」「ゴール」として考えていません。作品を展示することは、それを通して作者やそのご家族・・・を送るための「手段」「ツール」「社会資源」なのです。戸田わかくさ会の表現活動は、それに関わる全ての人たちのQOL（人生の質）を豊かにすることが一番の目的です。

（わかくさ 清水）

# 下笹目からのお知らせ

## ◆シャワーキャリーの導入

グリーングラス下笹目のお風呂の改修工事及び入浴用補助具(シャワーキャリー)の導入が、埼玉労働局や戸田市の協力もあり、おかげさまでこの10月に実現いたしました。従来の下笹目の浴槽では、補助具の導入が難しかったため、浴槽の取り換え工事をしてシャワーキャリーを取り付けました。これにより、体の不自由な方も安全に入浴出来るようになりました。



シャワーキャリーを使用することで、利用者の転倒や支援者の身体的負担といったリスクは少なくなります。まずは職員間で実践練習を行いながら、より安全に使うことが出来るように現在に取り組んでいます。

## ◇利用者や職員との取り組み

・入浴介助が必要な方や1人で入浴が出来ない方など、様々な方が暮らしています。1人で入れる方が完璧に洗髪や洗体が出来るかと言われれば、そうではない部分もあり、定期的に本人と話し合いを行い入浴の様子を確認させて頂いています。入浴支援が必要な方も、まずは1人で洗える部位を自身で洗ってもらうことから始め、洗い忘れの部位など1〜2か所、職員が伝えて洗っています。1回の洗体に対して1〜2か所に絞ることにより利用者にも伝わりやすく、少しずつ洗う部位が増えていく傾向が見られます。

## ◇利用者の声

家庭により入浴の仕方は様々かと思いますが、共同生活の中では最低限のルールを利用者主体のミーティングを通じて決めていきます。「体の洗う順番が分からない。お尻や足はこの順番に洗えばいいの?」など意見が出ており、洗い方の手順表を用いて説明や実際の入浴見

守りを通じて理解を深めてもらえる様、取り組んでいます。  
(グリーングラス 中根)

# 予定

## ◆成人を祝う会

日付…1月18日(土)  
時間…10時〜11時  
会場…戸田市文化会館

## ◆親の5年後子ども5年後を一緒に考えよう

### 「パパママしゃべり場」

日付…2月6日(木)  
時間…10時〜12時  
会場…新曽福祉センター講習会室  
問合せ…わかば  
☎048-446-6785

## ◆戸田市障害者就労支援センター

### 「就労相談会」

日付…3月13日(金)  
時間…1時〜3時  
場所…戸田市役所5階大会議室  
問合せ…障害者就労支援センター  
☎048-471-9333



## (編集後記)

新年明けましておめでとうございます。今年も皆さんにとって素敵な1年になりますように。

広報委員会はホームページも担当しており、昨年9月に、全面リニューアルが完成しました。こちらもぜひご覧ください。感想もお待ちしています。

(酒井)

## (法人の運営する事業所)

わかくさ、福祉作業所ゆうゆう、福祉作業所かがやき、グリーングラス、障害者生活支援センターわかば、障害者生活支援センターひかり、障害者就労支援センター、障害者就業・生活支援センターみなみ、

## (ホームページはこちら)

<http://www.wakakusa-kai.com/>

facebookもやっています



## 【発行】

社会福祉法人戸田わかくさ会  
〒335-0021 戸田市新曽1522-1  
TEL 048-432-8198 FAX 048-432-8298